

カナダ短期留学に参加して

はじめに

今回、私は約3週間の日程で看護とグローバルヘルス（カナダ短期留学）に参加する機会を得た。この留学プログラムは、看護学部の松下博宣教授によって実施されたものだが、カナダに行くのは初めての経験だったため、全てが新鮮で、刺激的だった。

私の親戚の一人がアメリカ人ということもあり、幼い頃から何度かアメリカに行ったことがあったし、小学生の頃アメリカに一週間ほどのホームステイを経験したこともあった。それにカナダとアメリカは地図上で隣り合っている。これらのことから、カナダとアメリカはだいたい同じような文化や習慣がある、と勝手に思い込んでいた。しかし実際は違っていた。カナダ短期留学に参加して感じたこと、考えたこと、わかったことなどをこのレポートで述べていく。



人と人の距離感

まず、私がカナダに行って最も驚き、また最も印象深かったことは、他人との距離の近さだ。日本人は外国人に比べて、人との距離が遠い というのはよく聞く話だが、これほどまでに顕著な違いがあるとは考えていなかった。

バス停でバスを待っていると どこから来たの？と声をかけられるのは当たり前。バスに乗っていても声をかけられることが多々あった。スーパーマーケットで買い物をしている際、突然ピカチュウのモノマネをされ、「ピカチュウ知っているでしょ？日本のキャラクターだね。」と声をかけられたこともあった。

道を歩いていれば、初対面の人でも大抵“hi! good morning!”と声をかけてくれた。バスに乗る際、“hi”等、挨拶をして乗ると、大抵“how are you?”“How’s your day?”などと返される。カナダの人にとってその会話はテンプレートの様なもので、もしかしたら特に何も考えて

はいないのかもしれないが、その状況、会話を日本での場面に置き換えてみると、なんとも不思議な話だと私は感じた。

優しく、親切。そして誠実である。日本人は世界の人からこのように思われることが多いと耳にしたことがある。確かに日本人は優しく、親切であり、比較的誠実だと私は考える。しかし、それは知っている人に対してのみなのではないかと、カナダの人たちに接して私は感じた。カナダの人たちの様に、積極的に、また自発的に異国の人に話しかけることができる日本人は少ないだろう。

カナダの人たちが積極的に、また自発的に異国の人に話しかけることができる理由の一つとして、カナダに移民が多いことが考えられる。カナダは世界有数の移民大国であり、自分とは違う生まれの人、色の人、文化の人 が近くにいることが当たり前の環境だからこそ、誰に対しても積極的にコミュニケーションをとることに抵抗がない人が多いのではないかと私は考える。

近時 2017 年、カナダはパスポートの性別選択に、今まであった F,M に加え X を追加した。Unspecified、未指定という意味だ。この事実も、カナダは一人一人を尊重し、多様性を受け入れようとする社会である ということのあらわれだと私は考える。

カナダの医療制度

次に、カナダの医療制度について述べてみよう。カナダの医療制度については、Brock University での授業や、授業後のアクティビティで何度も触れた。Niagara health 病院や Hotel Dieu Shaver 等にも見学に行くことができた。そこで理解した事と、調べてわかった事を交えて述べていく。



カナダは日本と同じく国民皆保険制度が採用されている。日本は基本的に医療費の 1~3 割負担が適用されているが、カナダは基本的には患者の自己負担が一切なく、全てを税金で

負担している。リハビリ治療、薬や歯の治療費は保険適用外だ。

カナダは基本的に家庭医の制度を採用している。様々な病気、怪我をしたらまず家庭医の診察を受ける。その家庭医の紹介を通してでなければ、専門医を受診することはできない。どの科を受診すべきなのか迷うといった懸念はないが、直接専門医に行くことが可能な日本に比べて、診察までに時間を要することになる。

家庭医は実数が少なく、家庭医が持てずにいる家庭も少なくはないのが実情だ。家庭医が持てない場合には、予約不要のウォークイン・クリニックと呼ばれる簡易診療施設に行くことになる。ウォークイン・クリニックは待ち時間が非常に長い。家庭医が持てた場合でも専門医の予約をとるのは簡単ではなく、専門医に診てもらえるまでに少なくとも数ヶ月はかかるとも言われている。

病状、怪我が重く、優先度が高いと判断された場合は、緊急外来として早めに受診ができることもある。入院ができた場合でも後の患者が詰まっているために、完全に治りきる前に退院させられてしまうことも少なからずある。入院可能な病床数を増やせばいいのではないかと考えたが、医療財源難のためこれ以上病床数を増やすのは困難であると言われている。

カナダの税率は州によって異なるが、私が滞在したオンタリオ州は税率 13% (カナダ全土で 5%(GST) 州政府で 8%(PST))。税金で医療費がまかなわれていることに有り難みを感じている人がいる一方で、待ち時間が長すぎる、入院可能な日数が短いこと等、少なからず不満を感じている人もいると私は考える。

私のお世話になったホストマザーは、カナダの医療制度に対して「全く不満はない」と言っていたが、それは退職していて、自分の時間を持っている人だからなのではないかと私は考える。

また、救急車を呼ぶのにお金がかかるのも日本とは違う、カナダならではの医療制度だ。具体的な値段は聞くことは出来なかったが、オンタリオの救急車を呼ぶためにかかる料金を調べてみると\$240 もかかるということがわかった。

日本では救急車を無駄に呼んでしまうということが問題視されている。私はカナダに行くまで、救急車を有料にするという考えは全く持っていなかったが、救急車の無駄な出動要請を減らすためにも、救急車の有料化は日本でも取り入れていいのではないかと私は考える。



まとめ

今回、私はカナダ短期留学に参加し、日本にいただけでは決して得ることができない多くの経験を得た。異国の医療システムに触れることができたし、多様な人々との交流を通して様々な考え、文化に触れることができた。この経験を無駄にしないよう、これからの看護学生生活を送っていきたいと私は考える。



[参考文献]

Niagarahealth(2018)

<https://www.niagarahealth.on.ca/site/know-your-healthcare-options-in-niagara>

Ontario ministry of health and long-term care (2012-06-28)

<http://www.health.gov.on.ca/en/public/publications/ohip/amb.aspx>

カナダの医療 海外移住.com(2018)

<https://www.kaigaijyu.com/country/canada/medicalcare.php>

世界の医療事情 外務省(2016-10)

https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/n_ame/canada.html

我が国の医療保険について 厚生労働省(更新日不明)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuhoken/iryuhoken01/index.html